

絆を深め、思いやりを育むために

長岡市立川口小学校

川口小学校では、上記を達成するために、挨拶運動と栽培活動を中心に取り組んでいます。ここでは、挨拶運動を紹介します。

1. 小中合同挨拶運動 (JRC委員会中心)

小学生と中学生が協同し、互いに思いやりの気持ちをもって活動に取り組む。挨拶を通して地域住民との交流を図る。

小学校JRC委員会と中学校生活向上委員会の児童・生徒が、6月と9月に地域の見守り隊とサポートチームと合同で挨拶運動を学校前と川口橋脇で実施しています。

初日は少し恥ずかしそうにする場面も見られましたが、徐々に打ち解け、最終日は地域に響くような挨拶が繰り返されました。中学生は、小学生にとっては、以前一緒に

縦割り班活動をした先輩なので、親しみを込めて挨拶が展開でき、効果抜群でした。地域の方やサポートチームの方は、毎日のように児童の安全を見守ってくれる方なので、元気に挨拶ができました。9月にもう1回実施するので、小学生も中学生も元気に挨拶ができるようにします。



小中合同の挨拶運動 (川口橋付近)

異学年との交流を通して思いやりの心を育む

新潟大学附属長岡小学校

附属長岡小学校では、4月に児童会の行事「全校なかよし会」を実施しています。1年生と上級生の交流活動を通して、1年生には学校への安心感や期待感を、上級生には上級生としての自覚を高めることをねらいとしています。小学校生活に期待と不安が入り混じる1年生に、ダンスや学校クイズで「小学校は楽しいところだよ!」「私たちが助けるよ!」というメッセージを伝えました。

また、4月から約1か月、6年生が「1年生なかよしサポートプロジェクト」を立ち上げ、朝の準備や給食の準備・後片付けをサポートしました。手伝うところとさせる

ところを意識して、1年生が自らできる喜びを実感できるように、励ましの言葉をかけていました。徐々に自分たちでできることが増えてきた1年生は、「一人でできた!」と達成感を味わっていました。

異学年の交流を通して、思いやりの心をもち、行動で表す姿が見られたことを、嬉しく思います。



1年生をサポートする6年生

先輩の思いを受け継いで育む温かい心

長岡市立阪之上小学校

阪之上小学校では、「人のためにできることを考え、身近な活動に取り組むことを通じて、自己有用感をもち、相手を思いやる温かい心を育てる」ことを、福祉・ボランティア教育の目標に掲げています。

<愛校活動>

「学校をよりよくするためにできることをしたい」と考えた当時の6年生の思いを受け継ぎ、40年以上続いている活動です。児童と保護者が一体となり、心を込めて学校の隅々を清掃します。活動後には「心を入れていつも使っている校舎をきれいにできた」「先輩たちの思いと学校を愛する気持ちを受け継ぐことができた」などの感想をもつことができました。

<古紙回収>

空襲と火事で校舎の焼失を経験し、学用品が不足したことを不憫に思った地域の方

が、何かできることはないかと考え、始まった活動です。活動の意義や地域の方の願いを知り、皆と一緒に活動する一体感や活動後に「ありがとう」と声をかけてもらえる嬉しさを感じながら笑顔で活動していました。今後も温かい心があふれる阪之上小学校をめざし、活動を続けていきます。



愛校活動で児童玄関を清掃する6年生

地域とのかかわりあいを通して

長岡市立秋葉中学校

秋葉中学校では、地域と積極的にかかわり、自らの担うべき役割を考え、主体的に行動する生徒の育成を目指しています。このことは、保幼小中連携事業のねらいにも位置付けており、園では地域と仲良く、小学校では地域に学び、そして中学校で地域に貢献できるよう、体系的・発展的に教育課程を編成しています。とちお祭り大民踊流しには、全校生徒で参加して地域の方々と触れ合うとともに、伝統行事に携わる主催者やこの行事を楽しみにする住民の思いを理解しました。また、トチオノアカリという地域行事では、生徒と保護者が折り紙にメッセージを書き、灯笼を谷内商店街に灯しました。配食ボランティアでは、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、メッセージを添えて食事を届けました。いずれも夏季休業中の活動でしたが、多くの生徒が参加を希望し、意欲的

に携っていました。生徒は様々な行事に参加することで、地域とつながる喜びを感じるとともに、地域の方々の思いに触れ、ふるさとのことを考える生徒も多くなりました。また、明るい表情で元気に活動する中学生の姿は、地域の方々のコミュニケーションを通して、それぞれの行事を活かすことにつながりました。



全校参加のとちお祭り大民踊流し

ボランティア福祉部の取組

県立長岡商業高等学校

当校は、1910(明治43)年4月に開校し、創立114年を迎えました。校訓「土産商才」(道徳と経済を両立させた商業人の育成を目指す)のもと、「産業人としての実力の涵養」「自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的に取り組める人材」の育成に取り組んでいます。

当校ボランティア福祉部は、部員約120名の大所帯です。年間を通して、校地内の美化活動を中心に取り組んでいます。特に5月には、生徒玄関前に設置するプランターへのペゴニアの苗植えを部員全員で行っています。ここ数年の猛暑の中、花もぐったりしていますが、手をかけた分、毎年秋頃まで玄関前を華やかな雰囲気にしてれています。

また、校外でのボランティア活動にも、生徒それぞれが年1回以上参加しています。高校生ボランティア講座や各種街頭募金活

動、他の部活動のお手伝いなどに参加することで、他校の生徒や、様々な年齢の方との交流を通して、校内で学ぶことができない有意義な時間を過ごすことができている。

人数が多いため、全員で行動する場面は少ないですが、今後はコロナ禍以前のように地域の方との交流にも積極的に参加したいと思えます。



生徒玄関前のプランター

社会福祉協力校指定事業の推進にあたって



長岡市社会福祉協議会 会長 野口正博

日頃より、当協議会の活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。

さて、今年度、長岡市社会福祉協議会では「福祉教育と啓発活動の推進」を重点目標の一つに位置づけ、様々な事業を推進します。その活動の中核となるのが、平成3年度より長岡市と共催で実施している「長岡市社会福祉協力校指定事業」です。

この事業は、市内の小中特別支援学校、及び高等学校、高等専門学校の100校を社会福祉協力校に指定し、助成金の交付や各協力校への人材派遣、福祉教材の貸出等、幅広い支援を行っています。この指定事業を有効に活用し、自校の福祉教育の一層の充実に向けましてご尽力いただきますようお願いいたします。

